

# AI生成音楽と人間の曲、識別ほぼ不可能 8カ国調査で97%が聞き分けられず

22161380 小林龍生

## 概要

- ▶ 英調査会社イプソスと音楽配信プラットフォームのディージャーが8カ国で計9000人を対象に実施した調査で、人工知能（AI）が生成した楽曲と人間が制作した楽曲の聞き分けが多くの人にとって困難であることが分かった。ブラインドテストでAIの2曲と人間の1曲を聞かせたところ、参加者の97%が人間の曲を選べなかったという。

- ▶ ディーザーのアレクシ・ランテルニエ最高経営責任者（CEO）は、完全にAIで生成された音楽がプラットフォーム側やリスナーの反発にもかかわらず「氾濫している」と指摘し「調査結果は人々が音楽を大切にしており、AIか人間の曲かを知りたいと考えていることを明確に示している」と述べた。

- ▶ 今週初めには、AIで制作されたカントリー曲が米国のビルボードチャートで初めて首位に立った。ブレイキング・ラストの「ウォーク・マイ・ウォーク」はスポティファイで300万回以上再生されている。
- ▶ 「Walk My Walk」はSpotifyで350万回以上、YouTubeでは250万回以上再生されており、もう一つの人気楽曲「Livin' On Borrowed Time」は410万回以上の再生を記録しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=UwKmdH83qo0>

# コメント

- ▶ AIが作ったコンテンツは「人による温かみがない」と批判されてきましたが、もはや人が作ったコンテンツと見分ける事ができなくなっており、「AIは冷たい」という議論が無力化されてきています。  
人が作るものは温かみがあるから、優位性がある、と発言する事でAIが人間より上位には来れない、と牽制する狙いがありましたが、平均的な人間のやる事は、AIの方がもっとうまくやれる、という世の中に、既になってきている、と言えます。  
人間のアーティストはAIコンテンツの中に埋もれて消滅していく未来が近づいています。
- ▶ AI音楽は「人間のフリをしたコピー」から、「自分専用のオリジナル」へと進化しつつあります。

# 感想

- ▶ 以前までは、AIが曲を作っていたら作り物だと認識できる程度の精度だったのが今では見分けがつかなくなったので進化が早くてすごいと思いました。
- ▶ AIは使うものではなく、作曲する上でのや、何かをする上でのパートナー的存在になるのではないかと考えました。